

神戸市総合科学（化学）職員採用ガイド

くらしの安心・安全マイスター

# C h e m i s t

安心、安全は当たり前。  
そんな日常、支えています。



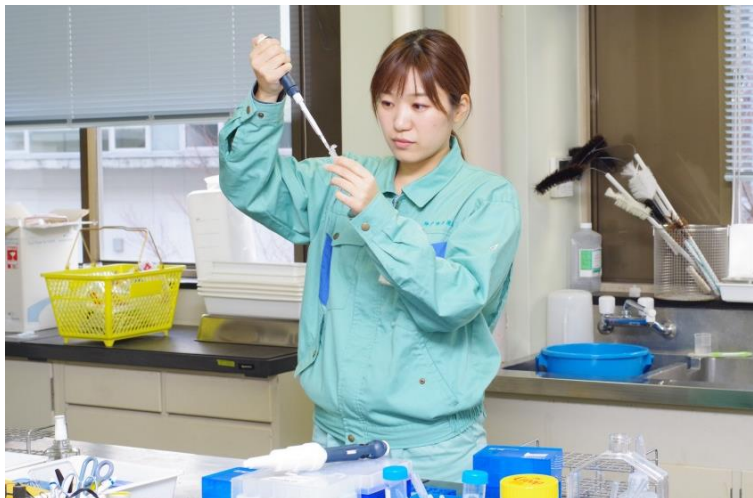
## 水道

# 市民のライフライン 安全な水のために

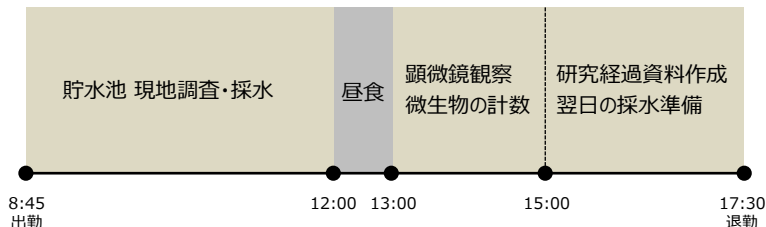
戎 紫穂 (平成27年度入庁)

水道局事業部水質試験所

巡回・生物係



### わたしの一日スケジュール



### わたしの仕事

貯水池や水道水の水質管理をしています。顕微鏡を使って処理前の水の植物プランクトンを計数し、その結果を浄水処理の参考にしたり、水道水の安全性を確かめたりしています。

現在は、異臭味の原因となるプランクトンを抑制する研究にも取り組んでいます。

データ解析など室内での仕事もありますが、貯水池で手漕ぎボートに乗って採水するなど、野外での仕事もたくさんあります。

### 神戸市に入って、ここが良かった！

化学職として入庁しましたが、生物分野にも取り組む機会を得られました。専門性が高いので日々勉強は必要ですが、幅広い業務が経験できるのは魅力です。

また理化学分野では、学生時代は憧れだったICP-MSやGC-MS/MS、LC-MS/MS、SEMなどの高価な分析機器を業務で使用できるのも嬉しいです。

## 下水道

# 悪質汚水の 排出を防止する

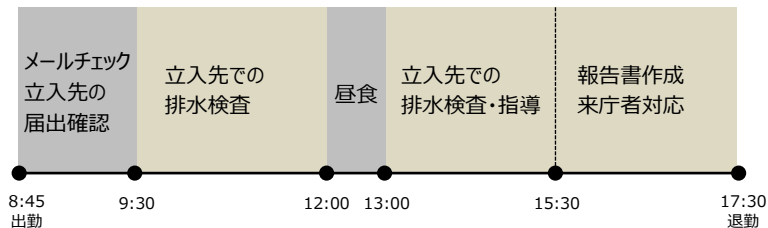
井濱 太 (平成28年度入庁)

建設局下水道部計画課

水質指導係



### わたしの一日スケジュール



### わたしの仕事

工場や研究所などに立入を行い、排水の水質が基準に適合しているかをチェックしています。基準を超過している場合は適切な処理が出来るよう、指導を行います。指導には、根拠法令や排水処理に対する理解が欠かせません。

また、事業者が工場を建設する際に、提出される届出について審査をしています。事前に排水処理の方法について相談を受けることもあります。

### 神戸市に入って、ここが良かった！

神戸市では便利な交通や豊かな自然を背景に、あらゆる産業が発達しています。灘五郷で有名な酒造会社だけでなく、造船所や航空機の製造工場、お菓子工場など多岐に渡ります。

様々な業種の方と接する機会があるため、仕事を通じて多くの発見があります。

## 環境

# 神戸の空・海・川 監視しています

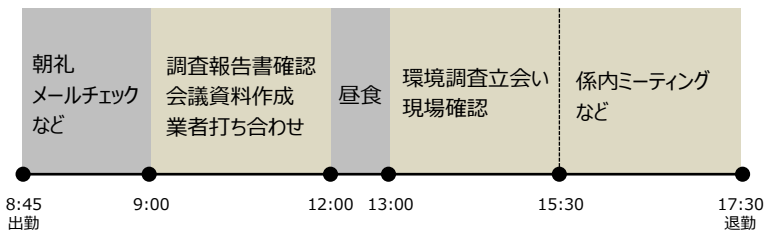
白川 悠子（平成21年度入庁）

環境局環境保全部自然環境共生課

環境監視担当係長



### わたしの一日スケジュール



### わたしの仕事

一般環境の汚染状態を把握するため、大気や水の継続的な調査を実施しています。

大気は主に市内21か所で24時間連続測定し、テレメータシステムによる汚染物質の常時監視を行っています。水質は海や川で採水し、様々な項目の検査を行います。

得られたデータの確認・解析だけでなく、調査会社との事務手続きやシステム・機械等の日々の管理も重要な仕事です。

### 神戸市に入って、ここが良かった！

神戸は大都市のにぎわいと豊かな自然、どちらも持っている魅力のある街です。六甲山の現場から青々と広がる港を眺めるときや、海域調査で海から六甲の緑を眺めるときには、神戸の環境を守る仕事に携わっていてよかったと実感できます。

仕事は楽しいことばかりではありませんが、働いていて初めてわかる神戸の魅力はたくさんあると思います。

## 環境

# クリーンなまちの 実現のために

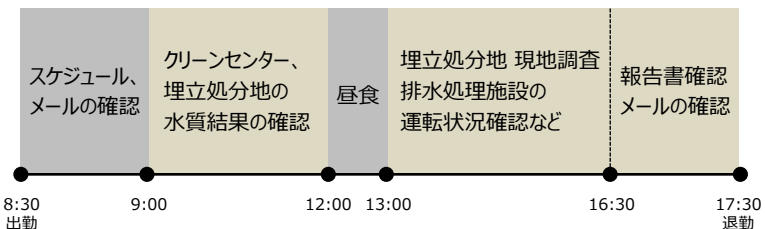
酒井 隆彬（平成27年度入庁）

環境局事業部管理課

環境調査係



### わたしの一日スケジュール



### わたしの仕事

神戸市が管理する埋立処分地やクリーンセンター（ごみ焼却施設）が公害を起こさないように、管理・監視をしています。

具体的には、埋立処分地の排水処理施設の水質測定結果を見て、施設運転の最適化を行ったり、より良い運転管理体制の検討を行ったりしています。

また、排ガス中の大気汚染物質などからも監視を行うので、幅広い知識が求められ、それが魅力の一つにもなっています。

### 神戸市に入って、ここが良かった！

神戸市は都市部に加えて、海も山もあることから、様々なフィールドで働ける可能性があり、魅力的に感じています。

また、最新のクリーンセンターや大規模な埋立処分地があり、先進的な取り組みに触れ、自らの技術力を高められる機会があることも良かったと思います。

# そこが知りたい！化学職

## ●化学職ってなんだ

約60人という少数精鋭、市職員の中でもレアキャラな化学職の担当業務は、the「化学」である分析業務、調査研究から、工場排水の規制、クリーンセンターや下水処理場の運転管理、環境教育など様々です。

主な配属先は、水道・環境・下水の3つですが、区役所での業務にチャレンジ出来たり、環境省に派遣された例もあります。



## ●異動のあれこれ

多くの職員が3～5年周期で異動し、色々な職場を経験出来るため、多様なスキルを身に付けることができます。しかし、深い知識と経験が求められる職場もあるため、長く同じ部署で働くスペシャリストも在籍しています。



## ●化学専攻の華「研究・学会発表」

古くからの政令指定都市である神戸市は、業務の幅が広いいため様々な新規事業にチャレンジできる力があり、様々な調査研究を行うことが可能です。河川などに含まれる農薬の分析方法の開発や、民間と共同して国から委託された革新的な下水処理方法の研究まで、研究内容が多岐に渡ります。

これらの結果は、全国規模で開催される様々な分野の学会で発表しています。他自治体と意見交換もでき、良い刺激になります。



## ●女性職員の活躍

化学職の中で女性職員は約2割。少なく見えるかもしれませんが、技術職の中では多い方です。年代・配属先ともにまんべんなく在籍しており、相談もしやすいです。

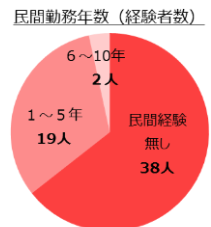
産休・育休を経て職場に戻ってきている方も多く、働きやすい環境が整備されており、係長になる女性職員も増えています。



## ●民間経験者の増加

以前は大学卒業後すぐに採用される職員が多かったのですが、最近は社会人経験のある方が多く採用されています。

民間経験のある人は、化学職の中の35%。民間での経験が十分役立ちます。



## あなたの挑戦、待っています。

### ●編集者

【岡 直弘（平成18年度入庁）】  
建設局中央水環境センター施設課  
水環境第1係長  
「新米パパ、定時退庁にむけて業務効率UPがんばっています！」



【白神 有基（平成25年度入庁）】  
北区北神支所まちづくり課  
「化学職の枠では収まらず、庁内公募制度を活用して区のまちづくり業務にチャレンジ中！」

